

法人・事業所概要

社会福祉法人立縫会

所在地：宮崎県日向市

モデル事業所：

- ・ 特別養護老人ホーム立縫の里
(介護老人福祉施設、短期入所生活介護)
- ・ グループホーム静妙庵
(認知症対応型共同生活介護)
- ・ 立縫の里デイサービスセンター
(通所介護)



導入の背景と事業所の課題

現場を圧迫していた「身体的・心理的負担」と「情報連携」

移乗・移動介助に伴う身体的・心理的負担

- ・ 移乗・移動介助に伴う職員の身体的負担や事故・けがへの心理的な不安が課題
- ・ 重度介護が必要な利用者の移動介助に2名の職員を要している

情報共有とシステム連携

- ・ ナースコールと記録システムが連動しておらず、発報情報や対応履歴を一元的に把握しづらい状況であった
- ・ 発報内容や対応状況を職員間で速やかに共有する仕組みづくりが必要であった

排泄支援に伴う負担と排泄状況の把握

- ・ 立位、座位の保持が難しい利用者についてトイレ内での排泄や衣服の着脱が困難であり、利用者・職員双方の負担が大きい
- ・ 排泄の有無やおむつ交換のタイミングを、定時の確認や職員の気づきに頼っているため、排泄がない場合でも確認業務が発生している
- ・ 利用者ごとの排泄状況を把握し、適切なタイミングでおむつ交換を行うことが課題となっていた



これらの課題をテクノロジーで改善する

導入したテクノロジー

導入機器

導入機器の種別	導入機器（製品名）
移乗支援	HUG（移乗サポートロボット）
移乗支援	床走行リフト（介護リフト）
移乗支援	天井走行リフト（介護リフト）
見守り	aams（センサーマット）
排泄支援	Helppad2（排泄センサー）
排泄支援	FUNレストテーブル （前傾姿勢支持テーブル型手すり）
介護業務支援	ケアコム（ナースコール）と Notice（記録システム）の システム連動

ナースコール



天井走行リフト



HUG



床走行リフト



導入・定着に向けた取り組み

取組のポイント

【ノーリフティングケアの導入】

定着には、リフトの操作だけでなく、その考え方や目的を職員が理解することが重要であるため、研修参加やリフトの使用体験を通じて共通認識を図った。

使用回数カウンターにより使用状況を可視化し、活用状況を確認しながら定着を図った。

【ナースコールと記録システムの連携】

ナースコールと記録システムを、アプリを切り替えず一つの画面で確認できるよう、abstract合同会社（記録システム）に連携開発を提案。その後、abstract合同会社と株式会社ケアコム（ナースコール）との協議・調整によりシステム連携を実現し、情報を一元管理できる環境を整備した。

導入前には勉強会を実施し、職員が円滑に活用できるよう準備を行った。

【排泄介助機器の活用】

立位や座位の保持が難しい利用者の排泄介助にはFUNレストテーブルを導入し、身体を預けて姿勢を安定させることで、車いすから便座への移乗や衣服の着脱を安全に行えるようにした。

また、「Helppad 2」を導入し、排泄を検知すると職員に通知されるため、必要なタイミングでおむつ交換を行うことができ、排泄介助の効率化につなげた。

事業の成果

強い腰痛を感じている職員の割合が**22.6%→4.0%に低下**

持ち上げ動作が多いと感じる職員の割合が**61.3%→24.0%に低下**

移動・移乗に伴う事故・けがへの不安を感じている職員の割合が**93.5%→56.0%に低下**

重度介護が必要な利用者への利用介助に必要な職員数が**2人→1人に削減**

入所者がナースコールを押してから職員が対応するまでに要する時間が
平均**28.6秒→21.3秒に短縮**

ナースコールと記録システムを連動させたことで、情報の確認やアプリの切り替えにかかる時間を削減

FUNレストテーブルの活用により、利用者の姿勢が安定し、移乗や衣服の着脱などの
排泄介助を行いやすくなった

不要なおむつ確認が減り、利用者職員双方の負担軽減につながった

今後の展望

介護テクノロジーが利用者の身体状況や住環境、そして解決したい課題に対して、本当に適切で効果的かどうかを確認する

誰がいつ行っても、同じ方法で、同じ成果が出せるように、ルールや手順を統一する

職員の教育を継続して実施する



職員の負担軽減、介護の質の向上、利用者のQOL向上を図っていく